

平成19年9月11日（火）

（午後3時10分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番11、9番 上田君。

〔9番（上田良治君）登壇〕

○9番（上田良治君）通告に従い一般質問を行います。

小・中学校の耐震補強についてお尋ねをいたします。全国の公立小・中学校の校舎や体育館のうち4,328棟が大規模な地震で倒壊、壊滅する危険性が高いことが文部科学省の調査で明らかになりました。全国に約13万棟ある校舎や体育館のうち、耐震基準が新しくなった1981年以降に建てられたり、改築や補強を済ませたりすることで、耐震性ありと判断されたのは58.6%であり前年度から3.9ポイント上昇いたしました。一方、耐震性なしは4万5,041棟でこのうち1万9,343棟で日本建築防災協会の基準により本格的な2次診断が行われました。和歌山県内の公立小・中学校の耐震化率は53.2%と前年より6.1ポイント上がり、47都道府県のうち27位、前年度が32位ということでありました。しかし、大半を占める1981年以前の旧建築基準の校舎・体育館では、25.9%と4棟のうち3棟がまだ耐震補強をされていないのが現状であります。

橋本市の耐震診断は平成15年度から平成17年度の3カ年計画で1次診断を実施しており、計8校、22棟の1次診断を完了し、結果、耐震性が低い建物については、今後2次診断を実施していくことになっています。これまでの調査結果の状況と今後の方針について、以下の質問をいたします。

まず1点目が橋本市の私立小・中学校は21

校ありますが、全棟数はいかほどですか。またこのうち1981年以前に建てられた棟数はいかほどですか。また、このうち補強済み数はいかほどですか。

2番目に構造耐震指標（I s 値）が0.3未満を現行基準の耐震強度0.5未満と同等と分類し、地震による倒壊、壊滅の危険が高いと明示しているが、危険性の高い棟数はいかほどですか。

3項目めにI s 値は一般的な地震診断では0.6以上、簡易な1次診断では0.8以上で、必要な強度を満たすとされるが、文部科学省は学校建築の改修では、より安全な0.7以上に補強するように求めているが、このことについてのお考えをお聞かせ願います。

4項目めといたしまして、今回の調査結果をもとに、県教育委員会が改修状況をインターネットで公表している以外、市町村独自に公表しているのは太地町だけであります。学校は近隣住民の災害時の避難場所となっている全校舎の強度を市民に知らせるべきであるが、いかがお考えですか。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（中上良隆君）9番 上田君の一般質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君）公立小・中学校の耐震補強についてお答えいたします。

橋本市立の小学校は14校、中学校は7校の21校あります。棟数では屋内運動場、体育館も含め小学校41棟、中学校33棟の計74棟あります。このうち新耐震設計法、昭和56年6月施行前の基準により建てられた学校は小学校で6校17棟、中学校で5校16棟の合計11校33

棟ございます。

このうち補強済み数でございますが、旧耐震設計法で建てられた建物のうち、1次診断の結果、構造耐震判定指標であるI s値が0.9以上の棟は1棟でございます。これが補強済みということで公表されております。

次に、I s値が0.3未満の危険性の高い棟数はいかほどかとおたがしでございますが、2次診断の結果、小学校1校と中学校1校について、壁面の一部がI s値0.3以下という数値になっております。

次に、耐震補強でございますが、一般的な2次診断では0.6以上で必要な強度を満たすとされておりますが、文部科学省では子どもの安全を守り、地震等の災害時の避難所となることから、より安全な0.7以上に補強するよう求められていることから、本市でもこれに沿った補強を計画していきたいと考えております。

次に、耐震診断の状況や、耐震補強工事計画の公表でございますが、財政状況も視野に入れ、市報等で公表を検討したいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（中上良隆君）9番 上田君、再質問はありますか。

9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

それでは1項目めから再質問をさせていただきたいと思っております。先ほど全棟数についてお答えをいただいたんですが、確認をしておきたいんですが、1980年以降に建設あるいは改修工事を行った棟、これは44棟あると思うんですが、そういったものについては、すべて建築基準のこういったものをクリアされていると理解してよろしいですか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）ご指摘のように1980

年以降の建築物については、新耐震基準に基づいて構造設計されておりますので、安全というふうに私どもも思っております。

○議長（中上良隆君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）それとこの1次診断を行われた結果、1棟につきだいたい全国的なところで調べてみますと、10万円から30万円の簡単な耐震にとどめられた自治体が多いとお聞きしたんですが、当市については、だいたい費用というのはどれぐらいかかったのかお伺いいたします。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）手元に決算資料は持ってきてございませんが、当時の3カ年計画の委託費用、概算ですけれども、だいたい面積によっていろいろあるわけですけど、棟によって違いますので、だいたい平均して1棟当たり20万円前後で1次診断をしていただいております。

○議長（中上良隆君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）わかりました。そういうことで2項目めに入っていくんですが、今回行われた耐震診断の結果、旧橋本市については3カ年計画について行われたわけでありましたが、旧高野口町に関しましては、合併する前に耐震診断は行われていなかったということで、合併してから診断をしていただいたと思うんです。そういったことで、旧橋本市についてはこの耐震基準をすべてクリアされておるということで、旧高野口町については、先ほどもお答えがあった中で、小学校が1校、中学校が1校、そういった0.3以下の基準、大規模な地震で倒壊するおそれのあるそういった棟が判明されたということであるんですが、この危険な棟について、教育委員会の意向としては公表していかないと。また、今後については公表して、今の段階では学校名を挙げて教えていただけないということであるんで

すが、この危険な棟について、応急処置とか、何らかの対策を講じられていただいておりますか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）この0.3未満という数字につきましては、耐震の2次診断の結果でございます、2次診断は18年度から3カ年計画で計画的に学校を調査しております。そういうことで、先ほどご答弁申し上げましたように小学校で1校と中学校で1校にIs値0.3以下という数字になっておりますけれども、校舎全体が0.3以下というのではなしに、ちょっとお時間をいただいて説明させていただきたいんですけども、相対的に校舎では窓際の多い、けた行き方向を仮にX軸としますと、教室の正面の黒板がついている面、いわゆるはりの方向をY軸としますと、総じてX軸、窓の多い通りに0.3以下という数値が現れておまして、Y軸のいわゆる壁の多い黒板のついている面につきましては、1以上の数字、あるいは0.3から0.8の間におさまっている、数値はばらばらですけど、そういうことがありますので、1棟全体が0.3以下という結果ではございませんので、その辺をちょっとご了解いただきたいと思います。

それからその0.3以下について、現在、公表しないということではないんですけども、先ほどの教育長の4点目のご質問でお答えさせていただいておりますけども、先ほど申しましたように18年、19年、20年度と3カ年計画で2次診断を予定しておりますので、診断が終了次第、緊急度の高いところから、財政計画等も立てまして、工事計画をやっていきたい。その時点で公表はさせていただきたいというふうに考えておりますけれども、今現在はまだ調査中ということでございますので、校名の公表は差し控えさせていただきたいということでございますので、ご了解をお願い

したいと思います。

それから0.3以下の補修は現在やっているかというご指摘でございますが、今のところまだ計画に入れてございません。したがって修理もまだやっておりません。

○議長（中上良隆君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）0.3以下の耐震基準以下の箇所が全体ではないんだけど、そういった窓際であるということで、そういったことで何らかの対策を危険な箇所については今使っている危険な教室を空き教室に移したりとか、あるいはプレハブ校舎を校庭に建設していくことも大事であろうと思いますし、これはよその地域でいいますと、体育館が0.6という基準以下のところでは閉鎖しているところもあるということで、今後はその危険な箇所についても緊急な対策というか、そういったことをしていただきたいと思います。

それと2次診断については、この費用というのはだいたいどれぐらいかかるのかというのがありますが、これは財政難というのものがあって、今後これから優先順位をつけていかなければならないということで、そういったことでも危険なところから耐震の修復工事をしていかなければならんということで、教育委員会として、優先順位を今後は公表をきちんとして、耐震の修復をされるときの計画もちゃんと公表の中に入れて上で耐震をしていられるのかどうか、そういったことをお伺いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）先ほどご答弁させていただきましたように、すべて調査が終わって緊急度の高いところから財政等々も協議を行いまして工事計画を立てていきたい。その旨には公表させていただくという考えであります。

○議長（中上良隆君）9番 上田君。

○9番(上田良治君)よろしくお願ひします。

それと高野口小学校についてなんですが、これは木造建築ということもありまして、耐震基準が木造と鉄筋と違うところがあると思うんですが、平屋建てということで、木造建築は耐震性が非常に強いと指摘されておりますが、高野口小学校においては築70年が経過しております、非常に老朽化が進んでいるということです。そういったことで、橋本市教育委員会の意見として、今回出されました一部保存して改築していくという結論を出されたんですが、耐震性についてこの意見の中であまり触れていないように見受けられましたので、この耐震性については現校舎を改修し、耐震を強めたほうが効果的であるとの意見というのがあるんですが、このことについては、教育委員会としておたじだいしたいと思ひます。

○議長(中上良隆君)教育次長。

○教育次長(岸田茂利君)今回の文部科学省の指導によります耐震診断について、高野口小学校は行っていないというふう把握しております。と申しますのは、議員ご存じのとおり以前、高野口町時代から、高野口小学校を保存改修するという計画の中で、構造的なチェックをされて、今改修に伴う建築確認手続上の構造計算で補強計画等々をやっておりますので、特に今回は教育委員会としてはあはしておりません。しかし、今後の動きについてはちょっとわからないところがありますので、当初から計画されている保存改修については、構造補強するという構造計算上の中でクリアされておるといふふう理解しております。

○議長(中上良隆君)9番 上田君。

○9番(上田良治君)わかりました。

それでは、この3項目めなんですが、これについては0.7以上に本市といたしましても

補強水準を合わせていただけるということでお答えをいただきましたので、4項目めに移らせていただきます。

この公表についてはいろいろと賛否両論の意見があると思うんです。その中には、やはり学校は災害時に地域住民の避難場所として、防災拠点にもなっておるし、非常時には児童生徒が1日の大半を過ごす生活の場でもございます。万が一、大規模な地震が起これば、深刻な被害をもたらしかねない社会で我々は暮らしているということで、今すぐに震災が起きて危ない状況ではないので、いたずらに不安をあおるわけにはいかないということで、今のところ非公表で不安をそういったことであまりただしてはいけないということで、教育委員会のおたじだいであると思うんですが、公表については、やはり今後、十分に検討していただいて、耐震補強の工事は大きな予算も伴ってくるし、また今後はどの学校から、どの棟から工事にかかっていくのかという優先順位をつけながら計画していくことにもなってくると思うんです。

そういったことで、耐震調査結果を公表するということが大事であると思うし、また市民の目の届かないところでこういった耐震補強をされるということは、非常に危険があると思うんです。耐震補強の優先順位を今後つけていかならんのですが、このことについて、教育委員会といたしましては、やはりこの危険な箇所、学校2校については、どちらを優先して順位をつけていかならんということで、やはり今後十分公表していただいて、十分に話し合いをしていただいた中で、また今後進めていただきたいということで、よろしくお願ひします。

それと、今は公表については非公開なんですが、問い合わせがあれば、校名を答えている地域もあるということで、そういったこと

について保護者、いろんな方から問い合わせがあった場合は、こういう危険な学校名は答えていただけるんですか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）先ほど議員さんのお話にもありましたように、今の段階で工事計画年度も立てていない中で、学校名を公表するとなりますと、いたずらに不安をあおる結果になるかと思えます。ということで、私どもでは、先ほどからご答弁させていただいております20年度の調査結果をもって、危険判定度の高いところから、あるいは財政状況等も十分に協議をさせていただいた中で、年度計画を立てていきますので、その時点では公表させていただくというふうには先ほどからご答弁させていただいております。

それで、今個々の問い合わせについてはやっぱり校名は控えさせていただいたほうがいいんじゃないかという思いでありますので、ご理解をいただきたいと思えます。

○議長（中上良隆君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）わかりました。

それとあと一つおただしいたいことは、今回この危険な学校を2校あるんですが、その中で今回候補にも出されておる災害時の避難場所に指定されておるということで、大規模な地震が来たら倒壊・壊滅するおそれがあるそういった一部の箇所であろうとは思いますが、そういったところを避難場所に今回指定されておるということについては、どうお考えなのか、外すべきなのか、それとも一部の危険なところを説明していかならん。そういったところについてはどうお考えですか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）I s 値が0.3未満であるという評価は震度6以上の地震で倒壊・崩壊の危険性が高いというふうな判定基準でございますので、私ども理解がちょっと間違

うとったらあれなんですけども、すぐに倒壊というおそれはないと判断しております。それに加えまして、先ほど申し上げましたようにある1棟でもX軸とY軸、総じて0.3以下という校舎はございませんので、それはもつかもたんかと言われたら私もちょっと言いにくい部分があるんですけれども、先ほどから同じことで恐縮なんですけども、財政状況等も鑑みて、できるだけ安全・安心のために学校づくりという格好で、早急には取り組んではいきたいと思っております。避難所の云々につきましては、市長部局ともそれまでの間、補強工事をするまでの間のご指摘やと思うんですけれども、どう取り扱うかについては、また協議させていただきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

○議長（中上良隆君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）それと、やはり早急に危険な箇所についてはお伝えしていただきたいということで、この前もアメリカでミシシッピ川ですか、大きな橋が倒壊して、どれくらい大きな犠牲者を出したということで、あれも橋の老朽化があったんですよ。そういったことで、今度いつ来るかわからない地震に関しましては、そういったことで一刻も早くそういった危険な箇所については、よろしく対処をお願いしたいと思います。

それと、今回、幼保一元化計画ということで、いろいろ問題にされているんですが、この幼保一元化計画も財政や少子化だけの問題ではないと思うんですね。園の老朽化、そういった耐震問題も含まれておる中でこういった一元化計画が上げられておると思うので、今後はこの小・中学校においてでも耐震が、どこの小・中学校でも今後は非常に老朽化してくるばかりなので、財政もないということで、小・中学校も今後は統廃合されていくんじゃないかなというように懸念されるわけで

す。そういったことについて、教育委員会のお考えもお聞きしたいんですが、小・中学校についても、今後は危険な箇所、そういったものを統廃合していくのか、こういったお考えですか。

○議長（中上良隆君） 9番 上田君。通告にございませんので。

○9番（上田良治君）いろいろ耐震問題からちょっとそれたんですが。わかりました。指摘を受けましたので、もうそろそろまとめさせていただきます。

いずれにいたしましても、市民の目の届かないところ、やみの中で決められていくような計画はしないでいただきたいということなんです。学校は子どもたちの命を預かる場でありまして、住民の避難場所でもあるんです。隠すことは今の段階でもおかしいと思います。今後、耐震改修を進める上で、情報公開は欠かせないと思います。現状での理解を得た上で進めていくのが、当然の筋道であると思われま。情報公開というのは、民主主義の根本をなすものでもあります。また、公表することは現実を見据えた上で、自助、共助、公助のあり方を考える機会にもなると思うんです。そして、鳥取県教育委員会が公表している学校の診断結果を申し上げますと、大規模な地震で倒壊の危険性が高い、あるいは低いといった棟ごとの安全性評価と緊急度の順位もつけ、公表されております。そういったこともお伝えいたしまして、今後の参考にぜひともしていただきまして、要望として質問を終わりたいと思います。

○議長（中上良隆君）これをもって、9番 上田君の一般質問は終わりました。